

# 時の流れの生き証人

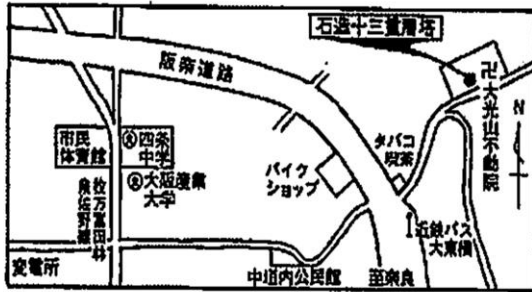


奈良方面行きの近鉄バス大東橋停留所近くの急な坂を登ると地藏堂がある。石造十三重層塔は、地藏堂に隣り合う大光山(だいこうざん)不動院の敷地内に建っている。この圓塔は、不動院の植

## 石造十三重層塔 大字 中垣内

え込みの中に建っており、入口側からは垣根越しに上部だけが見える。

圓塔は石造の供養塔の中でも一番古く、奈良時代にさかのぼる。個人や集団でそれぞれ死者の霊を用い、また遺立者自身の神仏から



のめぐみを塔に祈願している。石造十三重層塔は、本市では龍岡の龍光寺や不動院内にも見られ、はつきりと年代を刻んだ文字は見当たらないが江戸期のもものと悪われる。

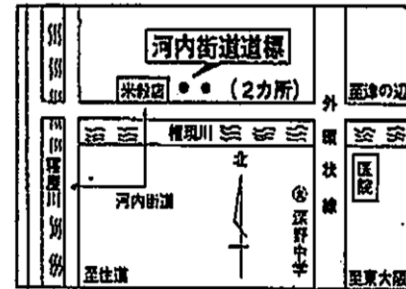
# 時の流れの生き証人



## 河内街道の道標 深野北三丁目

北河内を通過する街道として、東高野街道が生駒山ろくを南北に走っているのに対し、平野部を南北に結んでいるのが河内街道である。河内街道は四條畷の砂や中野を通過して枚方街道に至っていたので枚方街道とも呼ばれた。

市内の北端を東西に流れる楠現川北側の大東四條畷の歩道に二つの河内街道と刻まれた道標がひっそりと建っている。河内街道は、以前、道筋に埋没していたが、昭和五十五年に掘り出され現在の位置に建てられた。



道標は、かこう岩で作られており高さ一・七九メートル、幅十八センチの四角柱で、明治三十六年に大阪府が作った。道標には、四條畷停車場や住道停車場までの距離などが刻まれている。交通事情の変化で、広い道路が開通していくなかで東高野街道が今でも知られているのに比べ、河内街道という名は忘れられようとしている。